

月刊 いちえふ。

そう かん こう
創刊号

わん ふー おーる じゃ ばん じむきよく
1 FOR ALL JAPAN 事務局

とぴくす

インフルエンザの予防接種 ただ今、受け付け中！

インフルエンザの発症の予防と感染拡大防止に向けて、予防接種がスタートしました。予防接種が受けられる場所と日時については、各企業の担当の方にご確認ください。

11月の重点基本行動 運行前の車両点検 ヨシッ！

11月9日から15日まで、「秋の全国火災予防運動」が実施されます。車両からの油漏れは火災のおそれがありますので、火災予防の意識を高め、油漏れゼロを目指しましょう。

天神岬温泉の「しおかぜ荘」 が営業再開しました

9月16日から、天神岬スポーツ公園内の天神岬温泉「しおかぜ荘」が営業再開しました。営業時間や利用料については、「しおかぜ荘」にご確認ください。電話：0240-25-5726

いちえふ まち なかま 1Fを守る仲間たち 01

「廃炉をやり遂げよう」とする みなさんの心意気を感じます

あさむら ただふみ
浅村 忠文さん

かじまけんせつかぶしきがいしゃ とうきょうどぶくしてん
鹿島建設株式会社 東京土木支店
ふくしまだいいちとうどしやすいへきこうじじむしよ しょうちやう
福島第一凍土遮水壁工事事務所 所長

廃炉における汚染水処理は、重要で緊急性の高い仕事です。「凍土遮水壁」は汚染水処理の対策のひとつで、2013年度にスタート。「原子炉建屋のまわりに“氷の壁”をつくり、汚染源に地下水を近づけないことで建屋内の汚染水の発生を減らす対策です」と語る、凍土遮水壁の工事責任者、鹿島建設・所長の浅村忠文さんにお話を伺いました。

——工事のあらましと、このあとの予定を教えてください。

浅村さん：現在、1日約300トンの地下水が建屋内に流れ込んでいます。この地下水が原子炉を冷やしたあとの水と混ざり、汚染水を増やしています。そこで、1～4号機の建屋群を囲む地下に凍結管を1メートル間隔で埋めて、その中にマイナス30度の液体の冷却剤を循環さ



1981年入社。14年間原子力室に所属。95年から鉄道建設に携わり、つくばエクスプレス「つくば駅」など、主に関東圏の鉄道現場で所長を務める。震災後は1Fのほかに、岩手県宮古市田老地区の高台移転事業にも参加

せて地盤を凍らせませす。総延長1500メートル、深さ30メートル、厚さ2メートルもの巨大な氷の壁が完成すると、地下水の流入を1日100トン未満に減らすことができます。山側（北・西・南側）は今年7月に凍結管の設置を完了、海側（東側）も11月完了の予定です。凍結を始



とうどしゃすいへきこうじ 凍土遮水壁工事をいっしょにやり遂げた仲間たち(中央が浅村さん)

められる状態になるのは、16年2月頃の見込みです。

「福島のために一肌脱ごう」という 強い意志を感じます

——毎日、どのようにお仕事をされているのでしょうか。

浅村さん：凍土遮水壁の工事現場では1日平均500～600人、多いときで800～900人が働き、14年5月から今年8月末までの延べ人数は24万7700人に上ります。この夏は大変な猛暑でしたが、作業時間の調整や入域前の体調チェック、現場内休憩所「クールハウス」な



浅村さんのお勤め先

鹿島建設株式会社

凍土遮水壁事業は、国の補助事業として2013年度から東京電力と鹿島建設が設置を進めています。13年5月、汚染水処理対策委員会で鹿島建設が提案した凍土方式が陸側遮水壁の工法に決定。同年8月から実証試験開始。資源エネルギー庁から、13年10月に東京電力と共同で大規模工事(本事業)を受注、同月、13年度の予備費を活用する特別措置で本事業がスタートしました。

ど熱中症予防策を講じたおかげで、作業をやり遂げることができました。ここには20代の若者から、退職前にもう一働きしようという年配者まで、さまざまな人たちが集まっています。彼らに共通しているのは、志の高さです。それまでと違う作業環境に、まったく不安がないわけではないと思います。それでも、「自分が何とかしてやるんだ」と思っている方が多いのです。福島の復興や日本の安全のために「一肌脱ごう」という強い気持ちを感ずますね。

——ご苦労も多々おありでしょうね。

浅村さん：今年度中の凍結開始に向けてとても難しかったのが、短期間で、資材や機械を集めたり人繰りを調整したりすることでした。たとえば、全国から集まる作業員さんの宿舎を確保するため、広野町に宿泊施設(300人収容)を新設しました。ところが、働く人が予想を超えたため、いわき市内のホテルを丸ごと借りたり、鹿島建設のほかの宿舎の空きを利用したりしました。一時600人以上の宿舎を用意するのに、いわき湯本の温泉宿や勿来のゴルフ場のロッジ、北茨城まで探しました。あと、作業員さんの暮らしを支えるのに、食事の充実も欠かせません。宿舎の食堂では、ボリュームはもちろん、「肉の日」や「魚の日」を設けて食事が楽しみななるよう、いろいろな工夫をしています。

——被ばくを心配される作業員さんもおられるのでは？

あさむら たし ほうしゃせん こかい すく
浅村さん：確かに、放射線については誤解も少なくない
ようです。家族にずいぶん心配されて、「本当のところ
はどうなんですか？」と聞いてくる作業員さんもいます。
ただ、自分で数値を確認し、日々の被ばく線量管理を
たいけん かんり あんしん
体験すると、しっかり管理していることがわかり、安心
してくれるようです。鹿島建設は国の基準に基づき、被
ばく線量を厳密に管理しています。凍土遮水壁は1F
こうない こうじ ちが せんりょう たか ばしょ さ こうじ
構内のほかの工事と違い、線量の高い場所を避けて工事
をすることが難しい線状の構造物です。そのため、工事
まえ じょせん かべ つく じり
前に除染をしたり、コンクリートの壁を造ったり、砂利
や鉄板を敷くなど、放射線量を下げる処置を念入りに
おこな ざぎょういん ぜんいん ひ
行っています。そして、作業員さんはほぼ全員、被ばく
せんりょう やく わりへ
線量を約2～3割減らすことのできるタングステンベ
ストを着ています。

まいしゅうげんき かお み
毎週元気な顔を見せることで
かぞく あんしん
家族も安心

——あさむら じしん ふあん
浅村さんご自身は不安ではありませんか？

あさむら わたし ほうしゃせん かんりくいき しこと
浅村さん：私も放射線管理区域で仕事をするのは、

しんさいご はじ じしん はっせい しゅうかんご きんきゅうこうじ
震災後が初めてです。地震発生から2週間後、緊急工事
はい こうない ほうしゃせんりょう たか
で入ったときは構内の放射線量はまだ高く、とても緊張
しました。その後は徐々に落ち着いてきましたし、被ばく
せんりょうかんり てっぺい ほうしゃせんりょう いま ふあん かん
線量管理は徹底されているので、今はとりわけ不安を感
じることはありませんね。家族はさすがに、震災直後は
しんばい せんりょうかんり いま あんぜんたいさく
心配そうでしたが、今では「しっかり安全対策がなされて
いるのであれば大丈夫」と思ってくれているようです。

——やす ひ どうや いきぬ
お休みの日はどうやって息抜きを？

あさむら ねん がつ たんしんふにん にちよう
浅村さん：13年10月から単身赴任していますが、日曜
はなるべく東京の自宅に帰っています。楽しみは、愛犬
の散歩です。平日はゆっくりする余裕はあまりありませ
んが、福島でも散歩がいきぬきになっています。ちな
みに、作業員さんたちは福島県内を観光したり、ゴルフ
のほか、山登り、釣りやスキー
などを楽しんでいるようです。
きび げんば たか こころざし も つづ
厳しい現場で高い志を持続
けられるのも、仕事と休みの切
り替えがうまくいっているから
なのではないでしょうか。



いちえふのいま

あた しくな った しょくどう 24じかんたいせい の いりょうしつ きが り ょう 医療室を気軽に利用してください

いちえふ しせつ ちやくちやく
1Fではさまざまな施設で着々
せいび すす がつ
と整備が進んでいます。7月には
きゅうけいじょ かん び かいしゅうちゅう
休憩所が完備されました。改修中
しよくどう がつ さいかい
だった食堂は8月に再開しまし
た。また、救急医療室(ER)で
は、みなさまの健康を守るために、
24時間365日医師が待機してい
ます。「ちょっとお腹が痛い」と
いうのでもかまいません。少しで
もからだ ふちよう かん
も体調不調を感じたらがまんせ
ず、気軽に訪ねていただきたいと

おも
思います。
なが と く おせんすい
長らく取り組んでいる汚染水
たいさく がつ
対策のうち、9月には「サブドレ
ン」と「海側遮水壁」が完成しま
した。サブドレンとは、地下水を
くみ上げる井戸のことです。1～
4号機の建屋のまわりにあり、山
からなが ちかすい あ
から流れてくる地下水をくみ上げ
ることで、建屋に流れ込む地下水
の量を減らします。くみ上げた
ちかすい せんようせつび
地下水は、専用設備できれいにし

すいしつ かくにん はいすい
て水質を確認したうえで排水して
います。海側遮水壁は、建屋と海
あいだ もう きんぞくせい かべ
の間に設けた金属製の壁のこと
で、汚染された地下水が海に流れ
で ぶせ
出ることを防ぎます。

さらに、建屋を囲む部分の土
を凍らせることで地下水の流れ
こ お ちかすい なが
込みを減らす「凍土方式の陸側
しやくせい へ りくがわ
遮水壁」は難しい工事でしたが、
やまがわぶぶん がつ かんせい
山側部分が9月に完成しました。
ほうしゃせいぶつしつ のうど がいよう
放射性物質の濃度は外洋はもち
ろん、湾内のほとんどの場所で、
きかい はんない ばしょ
機械で測れないほど薄くなりま
した。



〈まちがい探し〉

毎号、ちょっと息抜きができるお楽しみを掲載していきます。今月はまちがい探しです。紅葉狩りに出かけた家族の絵が上下に2つ。とてもよく似た絵ですが、まちがいはいくつか隠れています。みなさん、おわかりになりますか？



回答の仕方・ プレゼントのお受け取り方法

まちがいの数はいくつでしょう。
次の(a)～(c)の中から選んでください。

(a) 5個 (b) 7個 (c) 9個

正解した方には、
プレゼントをさしあげます。

「ヴィレッジ受付に本誌を
お持ちになり、ご回答ください

11月16日 14時～17時

※ご本人に直接手渡しいたします
先着50名となりますので
終了した場合はご了承ください

今号のプレゼント

「うつくしまゼリー」や「白桃ダックワーズ」「小名浜かつおせんべい」など、福島名産のお菓子の詰め合わせです。

協力：日本マーケティング協会様



※賞品は写真と異なる場合がございます

ウェブサイトのご紹介

福島第一原子力発電所の廃炉作業を進める
作業員のみなさまに、働く仲間や応援者の
メッセージを伝えたいという思いで2015年
10月に開設した「1 FOR ALL JAPAN」です。
ウェブサイトでも本誌でも、いちえふで働く
作業員のみなさまを応援していきます。



<http://1f-all.jp/>

げっかん 月刊 いちえふ。 創刊号

【発行日】2015年11月10日

【発行】
1 FOR ALL JAPAN 事務局
(東京電力SC室)

【お問い合わせメールアドレス】
info@1f-all.jp